

- 生活の基本を体験することから 失敗をしながらも
住んでみて 食べる・入浴・洗濯などなど お金・薬の自己管理
仲間づくり・出会いの場を増やす
(つくしの会・断酒会・たまり場・ピアサポーターなどなど 1977年以降)
- 日中活動の場を
生活リズム・体力・人との出会い・社会との関わり・家族との距離を
- 朋夢共同作業所 1986年(40人ほど)
- 帯広ケア・センター 1991年(80人ほど)
- クッキーハウスぶどうの木 1993年(15人ほど)
- 帯広生活支援センター 1997年(20人ほど)
- キッチンハウスあしたば 2000年(15人ほど)
- 御用聞き屋 べんぞう商店 2010年 商店街とのコンソーシアム開始
- 多様な就労支援 一般就労を基本として 多様な実習・体験就労など

それぞれのところで少しの収入 就労へ 希望を持つ
働いてお金を少しでももらうことが 自立への自覚を促す体験

日課資源も多様に



市役所11F喫茶



帯広ケア・センター



クッキーハウスぶどうの木

朋友舎



図書館喫茶



多様な地域活動支援センター

サロン・出会いの場・少しの仕事



内職センター 朋友舎



農業



ジョブガイダンス



軽食・喫茶 配食サービスも



就労センター

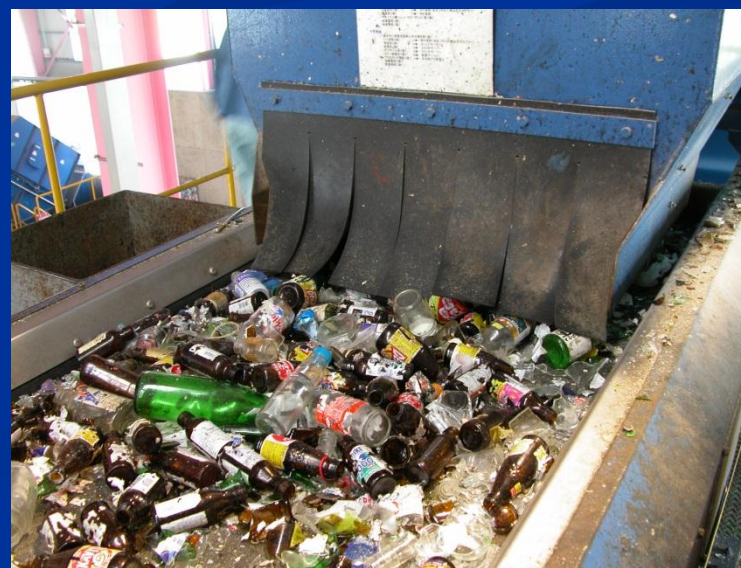
希望の多かった就労支援にも取り組む

生活支援の基本と同じ 1993年から2006年まで

- まずやってみること
- 何のためにやりたいのかを(夢など)
- 古くて新しい課題(訓練・指導が先にあるのではない) place-then-train model
- 当事者主体・主導が基本 専門職は当事者の求めに応じて協働作業を
- やりながら柔軟に工夫を繰り返す

一般企業での就労支援は1970年代から
本格的には1993年から

ジョブコーチ支援 <知的障害・精神障害> リサイクル工場・分別作業員



ジョブコーチ支援の実際 ユニクロ

女性 聴覚障害



グループ就労 介護用品メンテナンスセンター 精神障害 4名 2004年

